

第1学年2組 音楽科学習指導案

日時：平成25年10月22日（火）第5校時
場所：浜田市立第三中学校 第二音楽室
指導者：教諭 段 真大

1 題材名 混声合唱の響きを味わおう～歌詞の内容や曲想をもとに～

2 題材の目標

混声合唱の豊かな響きに関心をもち、音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る活動を通して、楽曲にふさわしい表現を工夫する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

音楽科第1学年で求められる「創意工夫して表現する能力」を、合唱活動の中で追求し、より深い感動を得るためには、リズムやハーモニー、強弱や構成など楽曲の構造的側面の理解に加え、歌詞の内容と音楽のかかわりを学習し、イメージを広げ表現を工夫することが大切である。そのため単に大きな声で歌うことや、楽譜に明記されている速度や強弱を受動的に再生するだけでなく、そうした表現要素の必要性を感じ取り、創造的に音楽表現を工夫することが重要になる。加えて歌唱では、歌詞も曲想にかかわる大切な要素の一つとしてとらえることができ、その背景にある情景や心情も大いにかかわってくる。小学校からの合唱活動を踏まえた上で、歌詞を十分に味わい、楽曲に対するイメージを膨らませ、それにふさわしい工夫ができるように本題材を設定した。また、合唱では声部の役割をそれぞれが感じ取り、他の声部とのかかわりを踏まえながら全体の響きに調和させて表現を工夫することも大切である。今回取り上げた「夢の世界を」「マイ・バラード」は、いずれも比喩を効果的に生かしたわかりやすい歌詞で、未来への希望をもち、仲間とともに歩いていくことを訴える内容の楽曲である。また、歌いやすい音域のユニゾンから始まり、複雑な和声も用いられていない。そのため、「生徒一人一人が考え、みんなで工夫し合唱を創り上げていく」といった主体的な音楽活動を図り、より豊かな合唱表現を目指すことに適した教材であると考えている。

(2) 生徒について

本学級は、男子16名、女子19名の計35名で構成されている。音楽科の授業全般において、入学当初は取り組みが消極的になりがちな部分が見られ、とりわけ歌唱活動では、集団で声を出して歌うことに対する抵抗感が強く見られた。現在は、そのような傾向は改善されつつあるが、豊かな発声や表現を追求するまでには至っていない。1学期には「主人は冷たい土の中に」（武井君子 日本語詞、フォスター 作曲）、「パフ」（芙龍明子 日本語詞、ヤーロウ&リプトン 作曲）を取り上げ、主に「声づくり」に主眼を置き取り組んできた。その活動を通じ、頭声的な発声の美しい響きを少しずつ感得し、自分たちの合唱に生かそうとする態度が見られ始めてきた。しかし、人目を気にすることや歌う基本が身につけていないことから、とりわけ女子を中心に表現が消極的になりがちな生徒も未だに少なくない。このような学級に対しては単なる歌うための技術指導のみでなく、生徒それぞれが表現したいものをつかみ、意見交換する中で音楽表現を追求しようとする活動が有効であると考えている。

(3) 指導にあたって

本題材では、楽曲から汲み取られる心情やイメージといった感性的な部分を大切にし、それらが曲の構成や歌詞と密接に関係していることを理解した上で、より感動的な表現を追求していきたい。その際、パート別活動や全体で歌い合わせる中で積極的に意見を交換する場面や、グループに分かれて互いの演奏を聴き合う活動などを取り入れることにより、「課題をもって活動し、お互いの気持ちを通い合わせながら、自らが意欲的に表現する」という学習姿勢を育てたい。特にパート別活動では、一人一人の曲に対するイメージから、曲趣にふさわしい音色や音楽のまとまりについて考察していくことで、表現力の高まりに気付くことができるような課題提示を心がけたい。こうした活動を通じ、自らが工夫して歌うという主体的な学習活動としての合唱へ発展させることができれば、生徒の音楽的感性を育てることができるのではないかと考える。本時で取り上げる「夢の世界を」は、11月2日に行われる「校内合唱コンクール」課題曲として取り組んでいる曲である。学習の成果をステージで発表するという、そして何より合唱をクラス全員が団結してつくり上げる喜びや成就感を味わうことを通じて、今後の活動への意欲に結び付けられるような指導を目指していきたいと考えている。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：歌唱	
○	ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
	イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
○	ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	声の音色、曲種に応じた発声による様々な音色
	リズム	/
	速度	/
	旋律	旋律線のもつ方向性、フレーズ
	テクスチュア	和音や和声
	強弱	ふさわしい強弱の設定、強弱を保ったり様々に変化させたりすること、音楽の全体や部分における強弱の変化
	形式	/
	構成	/
イ	用語や記号	/

- 5 教材 「夢の世界を」(混声三部合唱) 芙龍 明子：作詞／橋本 祥路：作曲
「マイ・バラード」(混声三部合唱) 松井 孝夫：作詞・作曲

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱	○	○	○	
A・器楽				
A・創作				
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①歌詞の内容や曲想に関心をもち、意欲的に歌おうとしている。(歌) ②声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(歌)	①歌詞と音楽とのかかわりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌) ②音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割と全体の響きとのかかわりを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌)	①リズムや音程を意識してパートの旋律を正確に歌うとともに、歌詞と音楽とのかかわりが生み出す特質や雰囲気を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付けて歌っている。(歌) ②声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な発声、呼吸法、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。(歌)

(歌)：歌唱 (器)：器楽 (創)：創作 (鑑)：鑑賞

7 指導と評価計画 (全5時間)

次	時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	[共通事項]	評価	評価方法
第一次	1	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、進んで歌うことができるようにする。	○楽譜を見ながら全曲を聴取する活動を通して、全体的な旋律の動きや曲想、歌詞の大まかな内容を把握する。 ○音楽の大きなまとまりや曲の特徴について確認し、発声に気を付けながらパート別に旋律の定着を図る。 ・音高やリズムに気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱をする。 ○学習の振り返りをする。	音色 ↓ 旋律	ア①	発言の内容 演奏の聴取
	2	歌詞と音楽とのかかわりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫するとともに、そのために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付けることができるようにする。	○歌詞の表す内容を生かしながら、曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・歌詞を朗読し、その内容からイメージしたことを全体で共有する。 ・歌詞と旋律とのかかわりを確認し、イメージに合った表現を追求するという観点で課題を設定し、パート別に活動する。 ○学習の振り返りをする。	音色 ↓ 旋律 ↓ 強弱	イ① ウ①	発言の内容 楽譜への書き込み 演奏の聴取
第二次	3	声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもって、発声や言葉の発音などに気を付けながら曲想にふさわしい表現で歌うことに主体的に取り組むことができるようにする。	○主旋律、副旋律、和声的な重なり等声部の役割と全体の響きとのかかわりについて考えながら、曲想にふさわしい表現で歌う。 ・表現を工夫していく際に考えたことを確認し合い、歌う。 ・各声部の歌い方にふさわしい自然で豊かな発声や言葉の発音について、範唱等を参考に工夫する。 ○学習の振り返りをする。	音色 ↓ 旋律 ↓ テクスチャ	ア②	発言の内容 ワークシート 演奏の聴取
	4	範唱CDの聴取を通して、音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチャ、強弱)と音楽表現とのかかわりを知覚し、それらを生かした表現のよさを感じながら、音楽表現を工夫することができるようにする。	○範唱CDの聴取から知覚・感受したことを生かしながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ・範唱CDを聴いて、音楽の諸要素がどのように生かされているか話し合う。 ・グループに分かれて互いの演奏を聴きあう活動を通じ、自分達で考えた表現の工夫を、合唱にどのように生かすのか話し合い、歌い方を工夫する。 ○学習の振り返りをする。	音色 ↓ 旋律 ↓ テクスチャ ↓ 強弱	イ②	発言の内容 ワークシート 演奏の聴取
	5 (本時)	「夢の世界を」Bの部分について、音楽表現を工夫したことを生かしながら、そのために必要な発声、呼吸法、身体の使い方を意識しながら演奏に生かすことができるようにする。	○これまでに学習した内容を生かしながら、曲想にふさわしい表現で歌い合わせる。 ・演奏を録音し、これまでの学習内容について確認する。 ・録音の聴取を通じて気づいたことを生かし、よりよい演奏にすることを目指して、曲にふさわしい音楽表現を追求する。 ○学習内容の振り返りをする。	音色 ↓ 旋律 ↓ テクスチャ ↓ 強弱	ウ②	発言の内容 ワークシート 演奏の聴取

8 本時の学習（本時 第二次 3 / 3）

(1) 本時のねらい

「夢の世界を」Bの部分について、音楽表現を工夫したことを生かしながら、そのために必要な発声、呼吸法、身体の使い方を意識しながら演奏に生かすことができるようにする。 【音楽表現の技能】

(2) 本時の展開

学習活動 ◇予想される生徒の反応	・教師の支援	評価規準と 方法
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと活動の流れ（学習内容と学習活動）を知る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「夢の世界を」Bの部分の録音して、よりよい合唱にするにはどのようにすればよいか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢の世界を」を合唱し、録音する。 ・録音を聴き、よりよい合唱にするためにはどのような工夫をすればよいかパートごとに話し合う。 ◇パート間のバランスが悪い ◇発音がはっきりしない ◇声が暗い など ・設定された目標に基づき、パート別に活動する。 ・パート別の活動内容を踏まえながら全体で合唱する。 ・再度録音する。 ・録音を聴き、前半の録音と比較して高まった表現を確認する。 ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを黒板に掲示する。 ・活動の流れを明記したプリントを配布する。 ・録音やパート別活動を通じ、これまでの学習活動を振り返りながら、よりよい表現を工夫できるよう意欲を喚起する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「夢の世界を」Bの部分の録音して、よりよい合唱にするにはどのようにすればよいか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時との関連など補足説明をする。 ・歌うときの姿勢について確認する。 ・演奏前の緊張感を大切にしよう声をかける。 ・演奏を録音する。 ・録音を聴いて感じたことをワークシートに具体的に記入するよう説明する。 ・意見交換の内容をもとに活動目標を設定する。 ・互いに聴きあいながら歌えるように、柔らかな発声を心がけるように声をかける。 ・生徒の意見に対して、呼吸法や身体の使い方なども含めた改善のための具体的な手立てを助言する。 ・音程、リズムの不安な箇所を重点的に確認する。 ・フレージングに留意し、長いフレーズをたっぷりと豊かな表現ができるよう助言する。 ・本時の活動の成果を演奏に生かせるよう意欲を喚起する。 ・ここまで学習してきたことが表現に結びついているかどうか、ワークシートに具体的に記入するよう説明する。 ・ワークシートをもとに、生徒自身の気づきを取り上げ、認めていく。 ・ワークシートのチェック項目に基づき、A・B・Cの三段階で自己評価をするよう説明する。 	<p>ウ② 発言の内容 ワークシート 演奏の聴取</p>

(3) 本時の評価

【音楽表現の技能】ウ②

声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な発声、呼吸法、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。(歌)

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると判断される 生徒の姿の具体例	おおむね満足できると判断される 生徒の姿の具体例	支援を必要とすると判断される生徒の 姿の具体例と支援
音楽表現の 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・録音を集中して聴き、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現について考え、自分たちの演奏をよりよいものにするにはどうすればよいか根拠を説明し、実際の演奏に生かすことができる。 ・伸びやかで明るい声で歌うことができるように、リラックスした状態でたっぷりとしたブレスをとり、口形について意識しながら歌っている。 ・言葉の抑揚と旋律のフレーズを生かした強弱の変化を意識しながら歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・録音を集中して聴き、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現について考え、実際の演奏に生かそうとしている。 ・伸びやかで明るい声で歌うことができるように、リラックスした状態でたっぷりとしたブレスをとり、口形について意識することを歌いながら試している。 ・言葉の抑揚と旋律のフレーズを生かした強弱の変化を意識することを歌いながら試している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・録音を聴いて、自分達の演奏について気づいたことをワークシートに記入することができない。 →まず自分の受けもっているパートがきちんと歌えているかどうかに着目して聴くように助言する。 ・声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な発声、呼吸法、身体の使い方などの技能の必要性について認識はしているが、学習内容をうまく演奏に反映させることができない。 →まず、聴き手に歌詞が明確に伝わるよう、口形に留意し、一つ一つの言葉を明瞭にするために口をしっかりと動かすよう声をかける。 ・受動的な態度で活動し、目的意識をもつことができない。 →響きのある歌声とそうでない歌声の例を、教師の範唱から聴き比べるよう声をかける。

9 研究協議の視点

- ・教材は、生徒の事態を考慮し、主体的に取り組む態度を育てるために適切なものであったか。
- ・予想した生徒の具体的な姿や、その支援は適切であったか。



♪録音チェックシート【夢の世界を】B

1年組 番氏名 _____

○1回目の録音を聴いてどんなことに気づきましたか？





もっといい演奏にするにはどんな工夫をすればいいだろう？

～どんなことに注意して聴けばいいのかな？～

要素	例
音色	【明るい⇔暗い】【やわらかい⇔硬い】 など
リズム	【揃っている⇔ずれている】【重たい⇔軽い】【長い音がしっかり伸ばしている⇔短い】 など
速度	【速い⇔遅い】【だんだん速くなる⇔だんだん遅くなる】 など
旋律	【正確に音が取れている⇔音が取れていない】【旋律の流れを大切にしている⇔旋律の流れと関係ないところで音を切ってしまう】 など
テクニク	【男声が弱く、安定感に欠ける⇔メロディーであるソプラノが目立たない】 など
強弱	【強い⇔弱い】【強弱の幅がある⇔強弱の幅が足りない】 など
※歌詞	【発音がはっきりしている⇔聞き取りにくい】 など

【今日のパート目標】 ソプラノ・アルト・男声 ※いずれかに○をつける

○2回目の録音を聴いてどんなことに気づきましたか？

♪今日の取り組みを振り返って

チェック項目	評価
①リーダーを中心に熱心にパート練習に取り組んだ。	
②パート目標を自分の演奏に生かすことができた。	
③楽しく活動できた。	

評価はA/B/Cで記入しましょう。《A…よかった B…ますます C…残念》